

資料 1

「2024 64th ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」
各部門 審査委員長紹介・審査委員長メッセージ

■フィルム部門 福部 明浩 氏 ※新任



catch

クリエイティブディレクター、コピーライター

京都大学工学部卒。1998年博報堂入社。
2013年独立、(株) catch 設立。

【受賞歴】

ACC 賞グランプリ、
TCC 賞グランプリ、
ADC 賞グランプリなど。

【主な仕事】

大塚製薬カロリーメイト、ボディメンテ、
日本マクドナルド「家族といっしょに」シリーズ、
KIRIN グリーンラベル、午後の紅茶、
クラシエいち髪、HIMAWARI、Latte、漢方セラピー、
グルメな卵きよら、QUO カード pay など。

【主な著作】

絵本「いちにちおもちゃ」シリーズ、
「たべてあげる」シリーズなど多数。

【審査委員長メッセージ】

『なんかクル!』、求む。

数ある ACC 賞の部門の中でも、フィルム部門は最も歴史が古く、そして最も身体的な「気持ち良さ」を審査する部門だと僕は思っています。左脳というより、右脳。審査委員たちの生理的な反応が、すべての部門だと思っています。それはきっと、世の中に出した時の反応も同じで、正しいけれど、「なんかコナイ広告」が溢れる中で、フィルム部門は、その最後の砦なんじゃないかと思うのです。なにしろ、この部門には説明ビデオがありません。剥き出しの作品が、そこにあるだけです。そういう意味で、審査委員の目と肌感はとても重要で、今年は、凄くいい人選が出来たと自負しています。

この CM の良さって、うまく説明できないんだけど、「なんかクル!」んだよね。そう審査委員達に言わしめるようなフィルムが、たくさん応募されることを願っています。



■フィルムクラフト部門 柳沢 翔氏 ※新任



伊達事務所
ディレクター

多摩美術大学油画科卒。

カンヌ広告祭金賞、アジア太平洋広告祭グランプリ、ACC ベストディレクター
他受賞多数。

海外ではリドリースコットアソシエイツ(イギリス)、PRETTY BIRD(アメリカ)、
DIVISION(フランス)に所属。

【審査委員長メッセージ】

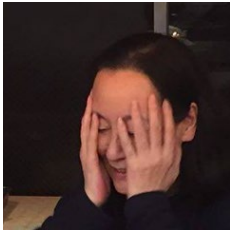
クラフトとは右脳だと思います。鼻血の出るような集中力から生み出される細部の織です。

本当に優れた細部には「新しい発明」が宿ります。

左脳的に作る細部は「手グセ」だと思います。計算された手グセが評価される業界はきっと斜陽です。
そうなりたくないです。

フロントラインのプレイヤーによる審査会を目指します。激辛で良いと思っています。

偏愛できる作品があれば、全力で推し、無ければ来年へ希望を託します。

■ラジオ & オーディオ広告部門 中山 佐知子 氏 ※新任**ランダムハウス
コピーライター、ディレクター**

ランダムハウスで長くラジオ CM 制作に携わり、サントリー、トヨタ自動車、キューピー等の作品を手掛ける。

1985年にサントリー「角びん」、1991年サントリー「山崎」で全日本ラジオCM大賞(現 総務大臣賞/ACC グランプリ)を2度受賞の他、広告電通賞、フジサンケイグループ広告大賞、民放祭(現日本民間放送連盟賞)で大賞を受賞し、ACC賞は150作品以上獲得。

長年ACC賞のラジオCM部門の審査委員を務め、経験豊かな視点と鋭い洞察力で審査に携わり、ラジオCM界の発展に寄与する。

【審査委員長メッセージ】

日ごろはむづかしいことを考えずに仕事をしているものですから、審査委員長なんぞ無理無理とビビリまくったのですが、思い出せば去年の審査会は気持ちよかったなあ、あの雰囲気は保存することはできないかなあと思ひまして、お引き受けした次第です。そんなわけで、審査委員長というよりは冷蔵庫または保存剤のようなものです。そう考えていただくと私も気楽です。

そして、今回はじめての例と思いますが副審査委員長をふたりお願いすることにしました。ひとは、ラジオCMでTCCクラブ賞を取ってTCC会員になった林尚司くんです。新人賞を飛び越していきなりクラブ賞ですから、みんな仰天しました。そして、もうひとはもちろん古川雅之前審査委員長です。「人」という文字は二本の線で出来ていますので、この二本がいれば三本めの私はいらないだろう、私は遊んでいようという不屈な考えが多少あります。万が一、三人揃って滑落しても審査委員長会の長老である澤本嘉光くんが助けてくれるに決まっています。

早くも「他力本願すぎる！」と林尚司くんに怒られましたが、審査委員の皆さんが言いたいことを全部言った上で全員が納得できる作品を選ぶという、こんな他力本願はどうでしょう。

■マーケティング・エフェクティブネス部門 松村 眞依子 氏 ※新任



日産自動車

日本マーケティング本部 ブランド&メディア戦略部 シニアマネージャー

【受賞歴】

- ・「日テレ CM 大賞 2020」にて企業広告「やっちゃん NISSAN 幕開け篇」日テレ CM 大賞受賞
 - ・「The One Show 2021」にて「ProPILOT GOLF BALL」
Branded Entertainment: Craft / Use of Technology 部門でブロンズ受賞
 - ・「第 52 回 フジサンケイグループ広告大賞」にて TVCM 「サクラ 電気自動車になった軽」篇、雑誌「モーターファン」掲載広告、デジタル等 審査委員長特別賞
 - ・「2022 62nd ACC TOKYO CREATIVITY AWARDS」にて シーマレストア
<ACC ゴールド> ブランデッド・コミュニケーション部門 C カテゴリー(PR)
<ACC ブロンズ> ブランデッド・コミュニケーション部門 D カテゴリー(ソーシャル・インフルエンス)
- 他

【経歴】

化粧品メーカーで営業職を経て、マーケッターとして商品開発、コミュニケーション開発を担当。2018 年に日産自動車に入社。主にブランドコミュニケーションと EV コミュニケーションの開発を行い、SNS の戦略立案と運営もリード。2023 年 4 月よりメディアチームにて、メディア戦略と戦略 PR を推進している。

【審査委員長メッセージ】

プラットフォームの多様化、広告スキップ機能の進化など、企業の声や情報は、お客さまに届きにくい時代になってきています。けれどマーケティングで成果を出せたとき、それはお客さまの心に響く、商品やサービス、またそれを表現するメッセージやクリエイティブを届けられたということだと思います。どんな時代になったとしても、お客さまのインサイトを捉え、ワクワクして頂けるマーケティングは必ずあると信じています。そのワクワクはお客さまや社会の役に立つもので、未来に期待が持てるものではないでしょうか。

マーケティング・エフェクティブネス部門は、単年でスピーディーに成果をあげたもの、複数年に渡る取り組みで成果をあげたもの、それぞれに光をあてます。キラキラしたマーケティングの底力を感じる作品を今から拝見するのが楽しみです。

■ブランデッド・コミュニケーション部門 尾上 永晃 氏



電通

フューチャークリエイティブリード室
プランナー・クリエイティブディレクター

東京理科大学大学院で建築・都市デザインを専攻ののち、2009年電通入社。効果が出そうなことならなんでもやる雑食主義者。世間をぐわっと巻き込む耕運機のようなキャンペーン設計を意識して生きている。料理をするのが好きです。

【受賞歴】

カンヌ、文化庁メディア芸術祭、読売新聞広告賞、TCC 新人賞など

【審査委員歴】

CANNES、ADFEST、TCC、NewYorkFestival、ADSTARS、販促コンペなど

【主な仕事】

マウントレーニア 30th、リプトン#667 通のラブレター、レタス保存用新聞、リラックマとカオルさん、駄言辞典、すき家、ピノゲー、ドラゴンクエスト・ウォーク、宮本浩次ソロブランディング、チキンラーメン アクマのキムラー、池上線フリー乗車 DAY、こち亀 40 周年&終了/201 巻キャンペーン、10 分どん兵衛、コピー年鑑 2022 編集長など

【審査委員長メッセージ】

「その他」を探す。(by 前々審査委員長 菅野さん)を目標として生まれた ACC の BC 部門。昨年の結果は、「その他」のひとつの到達点を見た気がしました。

なので。

ブランドや社会に真摯に向き合い、クリエイティビティを発揮して結果を出しているコミュニケーション(by 前審査委員長 橋田さん)を褒めるという前提のもとで、今年は、あらたな「その他」を探したい。

それが原因でカテゴリができちゃうような。

それが原因でアイデアの幅が、表現の幅が広がるような。

と書いたのが 2023 年です。

そして、受賞作はこういうやり方があったのかを提示してくれたりここまでやるのかがあったりしました。

なので②。

今年も「その他」を探し続けます。

どの部門に出したらいいか迷ってる「その他」の方、お待ちしております！

■PR 部門 眞野 昌子氏



日本マクドナルド

広報部・インターナルコミュニケーション部 部長

外資系 PR 代理店、ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社を経て 2019 年 10 月より現職

国内外のヘルスケア企業、日用品メーカー、米国農務省、外資系金融機関など、さまざまな業界のマーケティング、プロモーション、啓発キャンペーン、危機管理広報や、社内広報、企業広報活動に携わる。

日本マクドナルドでは、対外広報、IR 広報及びインターナルコミュニケーションを担当。

ダイバーシティ・イクイティ & インクルージョンを推進する社員グループのリーダーも務める。

PRSJ 認定 PR プランナー

【審査委員長メッセージ】

昨年新設された「PR 部門」に、たくさんのクリエイティブな PR のしごとが集まりました。

PR ならではの多様な視点、メディアをはじめとした幅広いステークホルダーを巻き込むエンゲージメント、社会課題解決のための本質を見据えたアクションにつながる意識変革を促すアプローチ。多くの方に知ってもらいたい、同じ熱さで体感して欲しい！と心から思える活動を成し遂げられた皆さんの専門性と熱意を祝い称えることができたと考えています。

今年も「PR 部門」では、コーポレート PR やマーケティング PR、ソーシャルキャンペーンはもちろんのこと、パブリックアフェアーズ、リスクマネジメント、CSR 活動/SDGs 活動、インナーコミュニケーションといった領域においても広く募集し、クリエイティビティを発揮して仕掛けたプロジェクトを表彰します。

皆様の積極的なエントリーをお待ちしております。

■デザイン部門 川村 真司 氏 ※新任

**Whatever / Chief Creative Officer, Co-Founder**
Open Medical Lab / Chief Creative Officer

Whatever のチーフクリエイティブオフィサー。180 Amsterdam、BBH New York、Wieden & Kennedy New York といった世界各国のクリエイティブエージェンシーでクリエイティブディレクターを歴任。2011 年 PARTY を設立し、New York 及び Taipei の代表を務めた後、2018 年新たに Whatever をスタート。2023 年より Open Medical Lab の CCO に就任。数々のグローバルブランドのキャンペーン企画を始め、プロダクトデザイン、テレビ番組開発、ミュージックビデオの演出など活動は多岐に渡る。カンヌ広告祭をはじめとした世界で 100 以上の賞を受賞し、アメリカの雑誌 Creativity の「世界のクリエイター 50 人」、Fast Company 「ビジネス界で最もクリエイティブな 100 人」、AERA 「日本を突破する 100 人」に選出されている。

【審査委員歴】

Cannes Lions、D&AD、NY ADC、One Show、Webby Awards、コクヨデザインアワード、文化庁メディア芸術祭、など

【主な作品】

Nike 「Unlimited Stadium」、Google 「Small World Restaurant」、Universal Music 「Gagadoll」、NHK 連続テレビ小説「スカーレット」オープニングタイトルバック映像、安室奈美恵 MV 「Golden Touch」、Vaundy × Morisawa Fonts MV 「置き手紙」、ストップモーション時代劇「HIDARI」

【審査委員長メッセージ】

永井さん、太刀川さんの後を継いで、3 代目デザイン部門審査委員長を拝命させていただきました。5 年かけて成長してきたデザイン部門は、とても簡単で、とても難しい部門です。簡単というのは、デザインさえ良ければ受賞できるからです。難しいのは、そのデザインの定義。我々のデザイン部門では、「デザイン」を旧来デザインと聞いた際にイメージするような、ある種表面的な表現行為だけではなく、アイデアを形にして社会に提案するプロセスであると捉えています。そのため、出来上がった作品と同じくらいに、そのプロジェクト自体の組成から実現までの過程や、社会への提案性やインパクトといった、作品の「前後のデザイン」も評価しています。小さいもの、大きいもの、形あるもの、形ないもの、いろいろな素晴らしい「デザイン」に出会えることを楽しみにしています。

■メディアクリエイティブ部門 檜原 麻希氏 ※新任

**ニッポン放送
代表取締役社長**

1985年慶應大学卒業、(株)ニッポン放送入社。
2009年デジタルメディア局長就任。2011年編成局長。2015年取締役編成局長
2016年取締役営業担当。2018年常務取締役 2019年代表取締役社長。
幼少期は親の仕事の関係で、イギリスやフランスでの生活を経験した帰国子女。
仕事としては：radiko 立ち上げ初期メンバー、ストリーミングアプリで丸の内の
ラブソングステーション SuonoDolce の立ち上げ、2011にオールナイトニッポン
ゼロの立ち上げ等

【審査委員長メッセージ】

メディアクリエイティブ部門は、広告という枠を越え、メディアのアセットを活用し企画やアイデアとの掛け算のクリエイティブによって、より立体的なアウトプットを評価するカテゴリーと考えています。逆に規定もないので、世の中を唸らせる「面白い」「新しい」「感動的」な作品をお待ちしています。多彩な審査チームで真剣に応募作品と向き合っていく事をお約束致します。

■クリエイティブイノベーション部門 木寄 綾奈氏 ※新任

**NewsPicks Studios**
取締役、Executive producer

NewsPicks のレギュラー番組統括。「The UPDATE」Co-MC、「OFFRECO.」「2040 未来からの提言」「2 Sides」「MKTLAB.」「EduPassion」等を立ち上げる。

早稲田大学卒業後、東芝 EMI で営業、洋楽部でメディア・プロモーションを担当。

2008 年に渡米、テレビ東京 NY 支局のディレクターとして、イーロン・マスク CEO 単独取材や IT 企業、米経済を取材。Forbes Japan の取材を担当し、本田圭佑氏、俳優ウィル・スミス氏のドリーマーズ・ファンズに関する記事を共同執筆。

Branded Shorts 2023 審査員／ACC CI・BC 部門 2023 審査委員

【審査委員長メッセージ】

「日本はイノベーションを生む国だ。」

私が 10 年過ごしたアメリカで、そう声をかけてもらうことができました。伝統文化とテクノロジーが混在し、生み出されたビジネスやアート。裏には、何かを作り出そうと一生懸命仕事をする人々。帰国した際には、毎日、皆さんが必死にゴールに向かって努力する姿を見て、胸が熱くなったのを今でも覚えています。

今年感じるのは、失われた 30 年が終息へ向かい、皆の心が明るくなる兆し。

これからの日本の経済を支えるのが、まさに「クリエイティブ・イノベーション」です。デジタルを駆使した先進的なアイデアに、「え、こんな事可能なの?」と驚くような斬新なプロダクト、私たちに未来を、サプライズを届けてくれる新しいイノベーションを募集します。

- ①企業・団体の新規プロジェクト
- ②スタートアップ
- ③クラウドファンディング
- ④大学や研究期間のプロトタイプを、皆さんと共に日本から海外へ発信していきたいと思えます。

クリエイティブに溢れ、事業への投資目線でのアドバイスを頂ける、最強の審査委員にご参加頂きます。これからの人生が豊かになるように、出会いに感謝し、共に未来を作っていく一歩を踏み出しましょう。